

広島の小児女児の殺害事件の犯人逮捕でほっと一安心したと思ったら、今日は栃木の小学 1 年の女児が殺害されて茨城で発見されると言う猟奇的事件が発覚した。正に小学校低学年の女子児童受難の時期である。孫娘を持つ身としては、他人事ではない。広島の犯人は、日系外国人(偽名?)のようだ。



フランスの暴動の例ではないが、日本も労働人口の減少時代に突入し、外国人労働者の受け入れが将来的課題となっている。然しながら、無節操な受け入れは、日本の治安に重大な影響を及ぼすこと必至である。今尚、不法就労者(在留資格以外の就労活動、不法残留者、不法入国者、不法上陸者)が絶えない現状と一時期の上野公園等での中東からの外人の溜まり場を思い出す。不法残留している者の数 28 万人とも言われている。

居住外国人と地域住民との間のトラブル、来日外国人による犯罪の増加、外国人労働者を食い物にする犯罪の多発といった問題も生じている。

(閑話休題)

この種の事件が起きると子供の通学時に父兄等が引率するというパターンが見られるが、何とも可笑しい話である。同じ事件が同じ所で再発することなど先ずあり得ないだろうに、無意味である。これからはスクールバスで学校の送迎をするような時代になるのだろうか。通学路の安全確保、防犯ベル等の装着、防犯ボランティアの支援活動等喫緊の対策が求められている。

聞けば、件のペルー人は自国においても性的暴行事件を惹起しており、考えるに性的病気に罹っている者はそれが矯正される事はないようだ。国内世論も逐次に性的犯歴者の公表或いは警察による追跡監視等に理解を示すようになってきた。これだけ頻発するようであれば、当然であろう。ある国においては性的犯歴者には追跡用のリングを一定期間取り付けることとするようであるが、日本でもそれ位する必要がある時代に突入しつつあるのではなからうか。

マンションやホテルの強度偽装・偽造問題が全国的な広がりを見せている。建築会社も設計事務所も販売会社も行政も責任を擦り付け合っているとしか思えない。この偽造問題は、姉齒設計事務所だけの問題なのだろうか。同様な事象は実は日本中至る所で密かに行われているのではとの疑いを拭いきれない。そうなのかどうかを簡単に確認する手段がないのが悔しい。管理組合理事長としては最も気になるところであるが、今のところ区分所有者からの問い合わせは全くない。若し万が一、強度が偽造されている事が解った時が怖いから敢えて口にしないのだろうか。何を信じれば良いのだろうか。

先ず、被害者救済である。然る後に責任の程度に応じてバードンシェアリングすれば良いではないか。今のところ論議が逆である。明日倒壊するかもしれないマンション住民の救済こそ急務と言わずして何が喫緊の課題であろうか。

憲法改正や防衛庁の省昇格が見えてきた事は悦ばしい事であるが、気になる事がある。

公明党が防衛庁の省昇格を容認する考えを示した事は一定の前進であるが、名称を「例えば防衛国際平和省とか、防衛国際貢献省とかにする考えを示したが、納得出来ない。唯単に軍と言う言葉が嫌いなだけだ。国際貢献省と言うのであれば各省が担任している全ての機能を集約すべきであるがそんな事は絶対出来る筈がないとのコメントもある。何れにしても、何故堂々と「軍」と言わぬ。軍と言う言葉を忌避してはならない。本質で議論すべきではないだろうか。自衛隊は既に本質は「軍」なのだから。

名称に関しては、自民党草案では「自衛軍」だそうだが、この言葉も何となく、座りが悪い。自衛だけが任務ではあるまい。軍隊の存在意義が自衛だけであればそれも良からう。災害派遣も民生協力もしない、国際貢献も担任させない組織であれば自衛軍と称しても仕方ないかもしれない。存在目的を限定する事に疑義がない訳ではないが…。国民の自由意志を当初から縛る必要はない。

正々堂々と、Army、Navy、Air Force と列国と同じにすべきである。

何れにしても、現実や本質を甘い言葉で飾る者は偽善者である。表面的優しきで己を誤魔化しているに過ぎない。